

自動車ユーザー連携賞

職業ドライバーマナー

UD化により地域に貢献する諸活動

神奈川県トヨタ自動車は、モビリティカンパニーとしての強みを生かした社会課題解決に取り組んでいる。その一つが、バリアフリー化(モビリティ)の推進である。トヨタ自動車は、災害時に被災者が車中泊避難する場合のリスクや対策を平時から周知する活動も展開している。

神奈川県トヨタ自動車

神奈川県トヨタ(市川英治社長、横浜市神奈川区)は、職業ドライバーマナーのユニバーサルデザイン(UD)化に向けた取り組みを行っている。全員の人が安心して移動できるモビリティ社会の実現へ、ハードソフトの両面から移動円滑化の促進に貢献している。

取り組みのきっかけは、UDタクシーの乗車拒否問題だ。東京五輪の開催を控え、UDタクシーが急速に普及した一方で、車いす利用者に対する乗車拒否が相次いだ。

同社は、2017年10月に発売された「JPN(ジャパン)タクシー」を取り扱う中、ドライバーとタクシー利用者双方が安心・安全に利用できるよう



「ユニバーサルエスコートマナー講習」を無料で提供し、接客してタクシー会社と神奈川県タクシー協会をサポートする。このノウハウをまとめた「ユニバーサルエスコートマナー」も追加。タクシーを使用している事業者への情報提供とともに、車いす利用者の体験も随時実施するなど、ドライバーと乗客双方の理解促進への働き掛けを行っている。

【選考委員コメント】
新商品の課題を早期に発見し、車両の改良につなげた、車いす利用者の乗降にかかわる作業を簡便化し、オリジナル装置を開発、その操作法を動画公開し、利便性を広く訴求するとともに、事業者への積極的な情報提供など、ハードソフトの両面から問題解決に尽力している。ユニバーサルエスコートマナー研修は、県でも採用されるなど、ユニバーサルサービスとしての社会的な認知も高まっている。

すべての人が安心して移動できる社会実現へ

SDGs貢献賞

「グリーン・エコプロジェクト」の取り組み

東京都トラック協会(東ト協、浅井隆会長)は2006年、「グリーン・エコプロジェクト」を立ち上げ、エコドライブ活動を推進している。改正省エネ法の施行に合わせて地球温暖化防止対策への対応を図ったもので、経営者・管理者・ドライバーの従業員一人ひとりの環境意識の向上を図ることから経営改善を目指している。

東京都トラック協会

このプロジェクトには、独自の二酸化炭素(CO2)など削減対策を盛り込んだ「ドライバーが自ら一枚の紙」(走行管理表)に毎回の給油量と走行距離、そこから計算した燃費を手書きで記入していただく仕組みがある。

また、参加事業者のレベルに合わせて、経営者・管理者を対象とした「レアルアップセミナー」としてレアルアップセミナーを開催。ドライバー教育用資料と燃費向上率は17.7%、CO2削減量は約26.5万トンの削減に貢献している。

継続的なエコドライブ活動



「エコドライブ」の普及を促進し、乗降用ドライバーマナーのユニバーサルデザイン(UD)化に向けた取り組みを行っている。全員の人が安心して移動できるモビリティ社会の実現へ、ハードソフトの両面から移動円滑化の促進に貢献している。

「選考委員コメント」
個々のドライバーによるエコドライブの実践の積み重ねが大きな環境効果を生み出す。また、エコドライブの普及を促進し、乗降用ドライバーマナーのユニバーサルデザイン(UD)化に向けた取り組みを行っている。全員の人が安心して移動できるモビリティ社会の実現へ、ハードソフトの両面から移動円滑化の促進に貢献している。

30年にわたる盲導犬育成補助への貢献

SDGs貢献賞

30年にわたる盲導犬育成補助への貢献

日本自動車販売協会連合会(自販連、金子直幹会長)は創立30周年を迎えた1988年、記念事業として盲導犬育成補助の募集キャンペーンを実施した。それから30年以上にわたる、障害をもつ人に新しい生活の基礎を提供する架け橋として、補助犬の貸与に取り組んでいる。

日本自動車販売協会連合会

きっかけは、雪スリップした車から主人をかばって重傷を負った盲導犬「サッポロ」が亡くなり、さまざまなメディアが取り上げるなど話題となったこと。記念事業として募集キャンペーンの贈り物として募金キャンペーン「コーヒータ杯の善意を全国に」の自由な「サッポロ」をキャッチフレーズに「盲導犬育

成」をテーマに、雪スリップした車から主人をかばって重傷を負った盲導犬「サッポロ」が亡くなり、さまざまなメディアが取り上げるなど話題となったこと。記念事業として募集キャンペーンの贈り物として募金キャンペーン「コーヒータ杯の善意を全国に」の自由な「サッポロ」をキャッチフレーズに「盲導犬育

成」をテーマに、雪スリップした車から主人をかばって重傷を負った盲導犬「サッポロ」が亡くなり、さまざまなメディアが取り上げるなど話題となったこと。記念事業として募集キャンペーンの贈り物として募金キャンペーン「コーヒータ杯の善意を全国に」の自由な「サッポロ」をキャッチフレーズに「盲導犬育

成」をテーマに、雪スリップした車から主人をかばって重傷を負った盲導犬「サッポロ」が亡くなり、さまざまなメディアが取り上げるなど話題となったこと。記念事業として募集キャンペーンの贈り物として募金キャンペーン「コーヒータ杯の善意を全国に」の自由な「サッポロ」をキャッチフレーズに「盲導犬育

モビリティ・ソリューション賞

モビリティカンパニーの強みを生かした

社会課題解決への取り組み

トヨタ自動車は、モビリティカンパニーとしての強みを生かした社会課題解決に取り組んでいる。その一つが、バリアフリー化(モビリティ)の推進である。トヨタ自動車は、災害時に被災者が車中泊避難する場合のリスクや対策を平時から周知する活動も展開している。

トヨタ自動車

トヨタ自動車は、モビリティカンパニーとしての強みを生かした社会課題解決に取り組んでいる。その一つが、バリアフリー化(モビリティ)の推進である。トヨタ自動車は、災害時に被災者が車中泊避難する場合のリスクや対策を平時から周知する活動も展開している。

トヨタ自動車は、モビリティカンパニーとしての強みを生かした社会課題解決に取り組んでいる。その一つが、バリアフリー化(モビリティ)の推進である。トヨタ自動車は、災害時に被災者が車中泊避難する場合のリスクや対策を平時から周知する活動も展開している。

トヨタ自動車は、モビリティカンパニーとしての強みを生かした社会課題解決に取り組んでいる。その一つが、バリアフリー化(モビリティ)の推進である。トヨタ自動車は、災害時に被災者が車中泊避難する場合のリスクや対策を平時から周知する活動も展開している。



トヨタ自動車は、モビリティカンパニーとしての強みを生かした社会課題解決に取り組んでいる。その一つが、バリアフリー化(モビリティ)の推進である。トヨタ自動車は、災害時に被災者が車中泊避難する場合のリスクや対策を平時から周知する活動も展開している。

トヨタ自動車は、モビリティカンパニーとしての強みを生かした社会課題解決に取り組んでいる。その一つが、バリアフリー化(モビリティ)の推進である。トヨタ自動車は、災害時に被災者が車中泊避難する場合のリスクや対策を平時から周知する活動も展開している。

トヨタ自動車は、モビリティカンパニーとしての強みを生かした社会課題解決に取り組んでいる。その一つが、バリアフリー化(モビリティ)の推進である。トヨタ自動車は、災害時に被災者が車中泊避難する場合のリスクや対策を平時から周知する活動も展開している。

トヨタ自動車は、モビリティカンパニーとしての強みを生かした社会課題解決に取り組んでいる。その一つが、バリアフリー化(モビリティ)の推進である。トヨタ自動車は、災害時に被災者が車中泊避難する場合のリスクや対策を平時から周知する活動も展開している。

トヨタ自動車は、モビリティカンパニーとしての強みを生かした社会課題解決に取り組んでいる。その一つが、バリアフリー化(モビリティ)の推進である。トヨタ自動車は、災害時に被災者が車中泊避難する場合のリスクや対策を平時から周知する活動も展開している。

トヨタ自動車は、モビリティカンパニーとしての強みを生かした社会課題解決に取り組んでいる。その一つが、バリアフリー化(モビリティ)の推進である。トヨタ自動車は、災害時に被災者が車中泊避難する場合のリスクや対策を平時から周知する活動も展開している。

トヨタ自動車は、モビリティカンパニーとしての強みを生かした社会課題解決に取り組んでいる。その一つが、バリアフリー化(モビリティ)の推進である。トヨタ自動車は、災害時に被災者が車中泊避難する場合のリスクや対策を平時から周知する活動も展開している。

自動車ユーザー連携賞

学生フォーミュラ大会の開催による

20年にわたる人材育成活動の継続

自動車技術会(大津啓司会長)は、2003年から学生の自走によるフォーミュラ大会を開催している。この大会は、実践的な能力を養い、より高いレベルに意欲的に挑戦する場として、学生フォーミュラ大会を創設した。

自動車技術会

自動車技術会(大津啓司会長)は、2003年から学生の自走によるフォーミュラ大会を開催している。この大会は、実践的な能力を養い、より高いレベルに意欲的に挑戦する場として、学生フォーミュラ大会を創設した。

自動車技術会(大津啓司会長)は、2003年から学生の自走によるフォーミュラ大会を開催している。この大会は、実践的な能力を養い、より高いレベルに意欲的に挑戦する場として、学生フォーミュラ大会を創設した。

自動車技術会(大津啓司会長)は、2003年から学生の自走によるフォーミュラ大会を開催している。この大会は、実践的な能力を養い、より高いレベルに意欲的に挑戦する場として、学生フォーミュラ大会を創設した。

自動車技術会(大津啓司会長)は、2003年から学生の自走によるフォーミュラ大会を開催している。この大会は、実践的な能力を養い、より高いレベルに意欲的に挑戦する場として、学生フォーミュラ大会を創設した。

障害をもつ人に「新しい生活」の基礎を提供

日本自動車販売協会連合会(自販連、金子直幹会長)は創立30周年を迎えた1988年、記念事業として盲導犬育成補助の募集キャンペーンを実施した。それから30年以上にわたる、障害をもつ人に新しい生活の基礎を提供する架け橋として、補助犬の貸与に取り組んでいる。

きっかけは、雪スリップした車から主人をかばって重傷を負った盲導犬「サッポロ」が亡くなり、さまざまなメディアが取り上げるなど話題となったこと。記念事業として募集キャンペーンの贈り物として募金キャンペーン「コーヒータ杯の善意を全国に」の自由な「サッポロ」をキャッチフレーズに「盲導犬育

成」をテーマに、雪スリップした車から主人をかばって重傷を負った盲導犬「サッポロ」が亡くなり、さまざまなメディアが取り上げるなど話題となったこと。記念事業として募集キャンペーンの贈り物として募金キャンペーン「コーヒータ杯の善意を全国に」の自由な「サッポロ」をキャッチフレーズに「盲導犬育

成」をテーマに、雪スリップした車から主人をかばって重傷を負った盲導犬「サッポロ」が亡くなり、さまざまなメディアが取り上げるなど話題となったこと。記念事業として募集キャンペーンの贈り物として募金キャンペーン「コーヒータ杯の善意を全国に」の自由な「サッポロ」をキャッチフレーズに「盲導犬育

モビリティ・ソリューション賞

運転特性計測アプリの無償配布など

交通事故削減への取り組み

ソニー損保は、ソニーグループの人工知能(AI)やセンサー、クラウドコンピューティングなどの先進技術を用いて、運転特性の計測ができるスマートフォンアプリ「GOOD DRIVE」を開発した。このアプリは、運転中の事故リスクを低減し、保険料を最大20%削減できる。また、運転中の事故リスクを低減し、保険料を最大20%削減できる。

ソニー損保

ソニー損保は、ソニーグループの人工知能(AI)やセンサー、クラウドコンピューティングなどの先進技術を用いて、運転特性の計測ができるスマートフォンアプリ「GOOD DRIVE」を開発した。このアプリは、運転中の事故リスクを低減し、保険料を最大20%削減できる。

ソニー損保は、ソニーグループの人工知能(AI)やセンサー、クラウドコンピューティングなどの先進技術を用いて、運転特性の計測ができるスマートフォンアプリ「GOOD DRIVE」を開発した。このアプリは、運転中の事故リスクを低減し、保険料を最大20%削減できる。

ソニー損保は、ソニーグループの人工知能(AI)やセンサー、クラウドコンピューティングなどの先進技術を用いて、運転特性の計測ができるスマートフォンアプリ「GOOD DRIVE」を開発した。このアプリは、運転中の事故リスクを低減し、保険料を最大20%削減できる。

ソニー損保は、ソニーグループの人工知能(AI)やセンサー、クラウドコンピューティングなどの先進技術を用いて、運転特性の計測ができるスマートフォンアプリ「GOOD DRIVE」を開発した。このアプリは、運転中の事故リスクを低減し、保険料を最大20%削減できる。

